【愛知県】探究× DXで創る次世代工業イノベーター

愛知県立岡崎工科高等学校
（全日制、定時制）

別添2

○ 愛知県における工業人材育成においては、 DX技術による生産性向上やGX推進、高付加価値を創出する人材育成に課題。
○ 工業科の高等学校においては、「作業を」に加え「課題を発見し、改善・変革する力」の育成が急務。
○ デジタル技術や次世代エネルギー技術で高付加価値を生み出す人材を育成するため、最新実習設備を整備し工業教育改革のパイロットケースを創出・普及する。

愛知県の現状・人材育成における課題

・労働力人口が2040年には37万人減少（2020年比）するにも関わらす、43.1万人の余剰が発生見込み。
・しかし、分野別にみると、生産工程従事者▲4.3万人、AI・ロボット等の利活用人材▲21.1万人、工業科高卒人材▲1.7万人であり、深い需給ギャップが存在。
・この需給ギャップを解決するには、「量の確保」ではなく、「不足が生じる分野への必要な資質・能力を持つ人材育成」が急務。
・県全体の温室効果ガスの総排出量の約5割が産業部門が占めており、水素等の次世代エネルギーの社会実装が急務。
・工業高校の定員割れの常態化、豊富な求人数の中で、ものづくりの高い技術をもつ地元中小企業からの人材ニーズに応えきれていない。

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】
・デジタル技術で高付加価値を生み出す次世代工業イノベーターの育成
・産業界伴走型アントレプレナーシップ教育を実践し人材供給のミスマッチを解消
【取組内容・創出するパイロットケース】
（教育改革の内容）
○産業界に求められるＤＸ技術を融合した学習内容へ刷新し学科を改編する
・最新設備の整備とＩＴ、ロボット、電気、建設、環境、デザイン分野の学科へ
○次世代エネルギー教育の導入
・水素等の社会実装、ＧＸの推進に対応した学び
○産業界、大学が伴走した人材育成（カリキュラム開発、企業課題のＰＢＬ学習）
（施設・設備の整備）
・スマートファクトリー、ドローン、ＶＲ、エネルギー教育設備　等
【他校への普及方策】
・公開授業や合同実習、成果発表会、教員研修で動画コンテンツ含む授業資料を共有。国家技能検定会場として開放。商工会議所等会合で連携ノウハウを普及



実施体制

協力校	工業科を設置する高等学校
主な連携機関 等 （予定）	岡崎商工会議所、トヨタ自動車、デンソー、トラスコ中山、JTEKT、バイナス、中部電力パワーグリッド、トーエネック、位田モータース、トヨタバッテリー、小原建設、STATION Ai、岡崎石工団地協同組合、岡崎市役所、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、名城大学、愛知産業大学、デジタルハリウッド大学　等